

就職最前線

キャリア

高等専修学校 進路指導部

先日、入社5年目を迎える卒業生Aさんのことで、会社から相談があり、保護者同席のもとミーティングを持った。会社側の環境とシステムが大幅に変更になることを受けての進退確認であった。本人にとつては寝耳に水。定年まで勤め上げるつもりであったところに突然訪れた転機であった。今回のケースで特筆すべきことは、会社側のスタンスであった。入社から丸4年、この期間の勤務を高く評価していただき、推薦状も積極的に作成していただいた。業務に対応できないから退職してほしいというのではなく、この4年間のキャリアを持つて、更なる飛躍の場へと飛び立ってほしいという前向きな提案であった。それが証拠に、担当者の目からは複数回涙が流れ、共に過ごした時間を愛おしむ発言が目立っていた。

ここで改めて思うことは、日々の業務に對し、どのような志で取り組んでいるのか。ということである。社会に出てからが長い。その年月をどのように重ね、実績を残していくか。歩んだ月日がキャリアと認めても、現在Aさんは、丁寧に書き上げた履歴書と心を込めて作成していただいた推薦状をある会社に出願、面接の実施を心待ちにしている。前職場に再就職の報告ができる日も遠くないだろう。